

## 脳卒中に係る検討結果について

## 1 脳卒中における課題

- ・平成26年度に実施した救急搬送実態調査（照会回数4回以上の事案を対象とした調査）により、疾患別搬送件数において、重症の搬送件数の中で脳疾患系の搬送件数が最も多く、また、脳疾患系搬送においては、重症よりも軽症の平均現場活動時間が長いことや平均照会回数も多い状況であることが判明した。
- ・現行の救急搬送実施基準では、脳卒中疑いに対応する医療機関リストは作成されているが、医療機関の役割に応じた搬送が実施されていない。また、初期医療機関を含めた脳疾患に対する医療機関リストは作成されておらず、観察基準も脳疾患に対応できる観察項目が少ない。

## 2 検討方針

救急搬送実施基準検討会に、上記1の課題検討を行うため専門部会を設置し、次の方針に基づき見直しの検討を行うこととした。

- ① 救急搬送実施基準第2号（医療機関リスト）に掲載されている医療機関及び脳血管障害に対応する診療科目を標榜する初期医療機関に対し意向調査を実施し医療機関リストの充実を図る。
- ② 救急搬送実施基準第3号（観察基準）から第5号（伝達基準）において、各項目の検討を行い充実を図る。

## 3 検討状況

(1) 救急搬送実施基準検討会（委員は別表1のとおり）

- ① 平成28年 8月23日 脳卒中専門部会の設置
- ② 平成29年10月10日 救急搬送実施基準改正案の決定

(2) 脳卒中専門部会（委員は別表2のとおり）

- ① 平成28年12月12日（第1回脳卒中専門部会） 実施基準の見直し方針について検討  
※ 緊急性が高い重症患者の救急搬送が多いという問題点から、重症患者に対する対応を中心に検討し、初期医療機関の医療機関リストは作成しないこととした。
- ② 平成29年 3月13日（第2回脳卒中専門部会） 医療機関への意向調査を検討
- ③ 平成29年 8月 1日（第3回脳卒中専門部会） 意向調査結果報告

## 4 検討結果

- ① 「脳卒中疑い」に係る医療機関リストは、既存の医療機関リストとt-PA治療が可能と思われる既存リスト以外の医療機関に対して、血栓回収術への対応、受入意向の有無を調査し作成することとした。また、照会4回以上又は現場滞在時間30分以上の事案を可能な限り受け入れる意向を示した医療機関を別に表示することとした。
- ② 救急搬送実施基準第3号（観察基準）、第4号（選定基準）、第5号（伝達基準）に新たに「シンシナティ病院前脳卒中スケール（C P S S）の評価」と「最終未発症時間」を追加することとした。

[別表 1]

救急搬送実施基準検討会委員名簿

分野	所属・職名	氏名	備考
学識経験者	東北大学大学院医学系研究科 外科病態学講座救急医学分野 教授	久志本 成 樹	
医師会	公益社団法人宮城県医師会 常任理事	登 米 祐 也	
3次医療機関	独立行政法人国立病院機構仙台医療センター 副院長	上之原 広 司	
	仙台市病院事業管理者 仙台市立病院 院長	亀 山 元 信	
	大崎市民病院 救命救急センター長	山 内 聡	
	石巻赤十字病院 副院長	石 橋 悟	
	みやぎ県南中核病院 救命救急センター長兼救命救急室室長	川 上 一 岳	
2次医療機関	公益財団法人仙台市医療センター 仙台オープン病院 院長代理兼救急センター長	茂 泉 善 政	
	伊藤病院 院長	伊 藤 聰 彦	
精神科関係団体	宮城県精神科病院協会会長	岩 舘 敏 晴	
消防機関	仙台市消防局 警防部救急課長	阿 部 和 彦	
	石巻地区広域行政事務組合消防本部 警防課長	酒 井 裕 之	
	塩釜地区消防事務組合消防本部 警防課長	池 田 尚 文	
	仙南地域広域行政事務組合消防本部 警防課長	半 澤 正 勝	
	大崎地域広域行政事務組合消防本部 消防課長	大 石 誠	

[別表 2]

救急搬送実施基準に関する脳卒中専門部会 委員名簿

分野	所属・職名	氏名	備考
医療機関	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター 副院長	上之原 広 司	
	東北大学病院 高度救命救急センター 助教	入 野 樹 美	
	仙台市立病院 診療部 神経内科部長	樋 口 じゅん	
	石巻赤十字病院 神経内科部長	及 川 崇 紀	
	大崎市民病院 副院長	吉 田 昌 弘	
	みやぎ県南中核病院 神経内科部長	澁 谷 聡	
	広南病院 脳神経外科 副部長	遠 藤 俊 毅	
	仙台東脳神経外科病院 院長	安 井 信 之	
消防機関	仙台市消防局 警防部救急課 救急課長	阿 部 和 彦	
	大崎地域広域行政事務組合消防本部 消防課 主幹兼救急係長	加 藤 一 則	
	仙南地域広域行政事務組合消防本部 警防課 課長補佐兼救急係長	日 下 三 郎	